

釧路南ロータリークラブ会報

第 34 回 例会 報告 2016.3.18 通算 1624 回

・点 鐘 長井会長

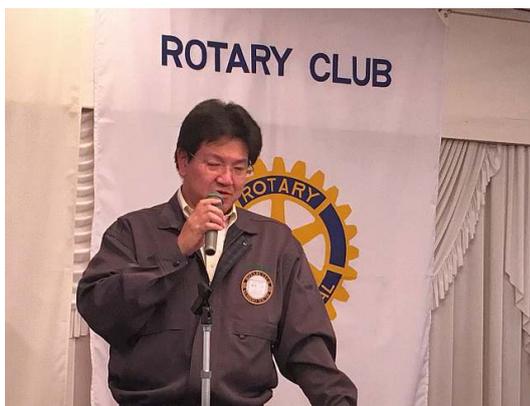
・ロ - タリ - ソング

「それでこそロータリー」



ソングリーダー 日向 乃里衣会員

・会 長 挨拶



皆様、こんにちは。月初めの会長挨拶では、ヴァーチャルウォーターの話をしてきましたが、その関連で、今度は地下水の問題についてお話しさせていただきます。

日本は食料輸入量だけで、約 600 億トンのヴァーチャルウォーターを輸入していると申しあげましたが、その約半分超がアメリカからのものであります。そのアメリカの国土の大部分は乾燥地帯であり、農業をするにあたって大量の地下水を利用しておりますが、現在、深刻な水資源危機に直面しております。アメリカで使用される地下水は主にオガララ帯水層からくみ上げられております。オガララ帯水層はアメリカ中部、グレートプレーンズ（大平原）の地下に分布する浅層地下水層であり、8 つの州にまたがる約 450,000 平方キロ（北海道の約 5.4 倍・日本の 1.2 倍）に及ぶ世界最大の地下水層があります。その圧倒的水量と大規模な灌漑農法によって、世界最大の穀倉地帯となりましたが、その代償として地下水の水位が著しく低下（過去 30 年で平均 1 2 m、最大 3 0 m）しております。このため、水を確保する為に井戸を深くしたり、枯れてしまった井戸も少なくありません。この水不足によってアメリカ内、特にテキサス州・オクラハホ州・カンザス州では、砂漠化・干ばつといった環境問題や、農地において土壌の塩類集積（塩害）により農地の放棄と言う問題も起こっております。日本の食糧の安定確保の観点からしても、この問題は深刻であり、主に小麦・大豆・トウモロコシなどの主要穀物の不足が将来的に予想できます。そのためにも、日本国内の食糧自給率を高めていかなければなりませんし、また、米を中心とした食文化をもう一度考え直すのにもよい機会と思われるのです。なぜなら、稲作は地下水（その代り溜め池や貯水池がありますが）を必要としな

い主要穀物だからでありますし、雨の多い日本に適した作物であります。また、稲作は他の主要穀物より、ある程度人手とインフラを必要といたします。なので、稲作の復興は、雇用創出による地方の活性化や高齢化の解消、出生率の向上にも寄与するのではないかと考えられます。結論としては、パン屋を経営、またはこれからパン屋を開店しようとしている方には申し訳ないのですが、食糧安全保障上、「パンより米を食べましょう」となろうかと思えます。

・幹事報告



《幹事の一言挨拶》

こんにちは、3月12日の7分区IMにお忙しい中、多くの会員の皆様にご参加頂き誠にありがとうございました。アカデミー研修・メインプログラム・友愛の広場・2次会と長時間となり、お疲れと思いますが釧路南RCの深い絆がこの機会に益々強まったと感じております。今期も残すところ3ヶ月余りとなりましたが、最後までご尽力・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、4月23、24日は北見での地区協議会ですので多くの参加を再度お願い致します。尚、今日の例会終了後に理事会を開催しますので宜しくお願い致します。

* 厚岸ロータリークラブから3月例会プログラムと会報が届いています。

・3月4日移動例会のため、長井会長入会記念品



・委員会報告

親睦委員会 宮崎結華親睦委員より報告



・本日のニコニコ献金

長井 一広会長	入会記念祝として
日向乃里衣会員	三男坊が無事に合格しました
工藤ゆかり会員	中1の孫、ほのかが学年で数学120名中1位になりました

・本日のプログラム

「IM開催に因んで」

担当 会長・幹事

◆長井会長



3月12日(土曜日)に釧路センチュリーキャッスルホテルにおいて、今年度のRI2500地区第7分区のIMが開催されました。PM14:30より白幡ガバナー補佐の点鐘により開幕。西村釧路RCクラブ会長の歓迎の挨拶、白幡ガバナー補佐の今IMについての内容の説明と進行して行きました。

メインプログラムの第一部は、小船井PDGの基調講演「ロータリーの歴史から学ぶ、青少年奉仕」であります。小船井PDGはロータリー100年の歴史を25年ごとに分けられて話を進められました。以下の通り

- ①1905年～1930年 創成期
- ②1930年～1955年 受難期
- ③1955年～1980年 拡大期
- ④1980年～2005年 発展期
- ⑤2005年～ 変革・衰退期

その中で③の拡大期に今の青少年プログラムのほとんどが整備されることとなると、説明されております。最後にロータリーの青少年育成に対する哲学を解説され、基調講演を結んでおりました。

第二部は、釧路RCの邵会員がコーディネーターを務めますパネルディスカッション「青少年奉仕活動の実践に学ぶ」であります。分区内の4クラブと釧

路北RACから1名ずつ、計五名のパネリストによる各クラブの青少年奉仕活動の発表、コーディネーターとの質疑応答と進行して行きました。パネリストの陣容は、釧路北RCより本間委員長・音別RCより稜川委員長・釧路ベイRCより成田委員長・釧路RCより後藤委員長・釧路北RACより小甲会長であります。パネルディスカッションの最後に邵コーディネーターによる総評でメインプログラムが終了いたしました。

閉会のセレモニーでは、山辺パストガバナー補佐が今IMのまとめの講評を、また、音別RCの次期第7分区ガバナー補佐の川村会員と次期IM開催ホストクラブ会長の伊東会長より挨拶があり、IMが終了いたしました。

◆亀岡幹事



会員の皆様お疲れ様です。3月12日の7分区IMにお忙しい中、多くの会員の皆様にご参加頂き誠に有難うございました。アカデミー研修・メインプログラム・友愛の広場・2次会と長時間になり、お疲れと思いますが、釧路南RCの深い絆がこの機会に益々強まったと感じております。特にメインプログラムの小船井修一パストガバナーの基調講演「ロータリーの歴史から学ぶ、青少年奉仕」では私たちが知らない歴史からの視点で青少年奉仕とは何かを

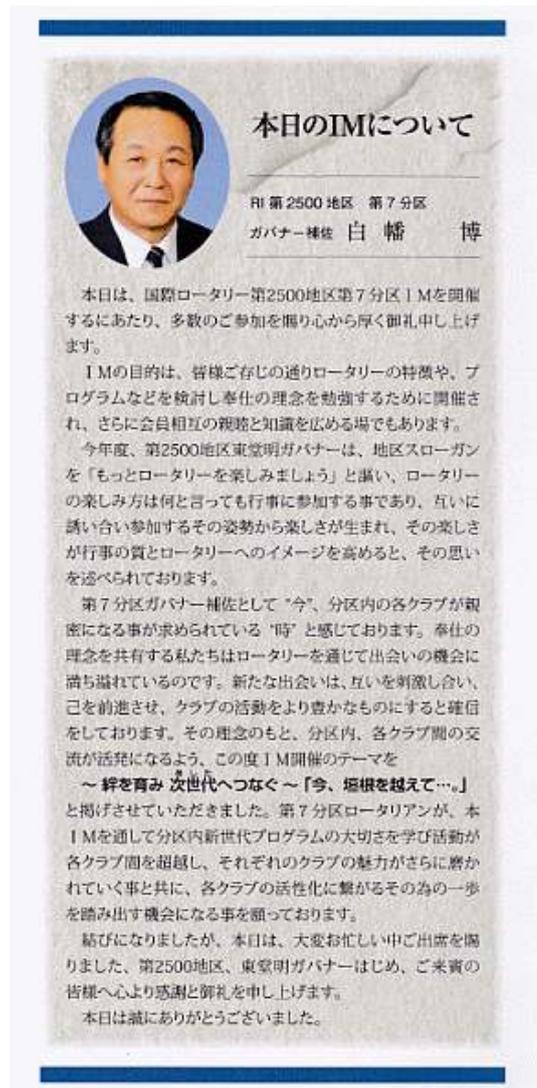
説明していただきました。又、パネルディスカッションでは「青少年奉仕活動の実践に学ぶ」をテーマに5人のパネリストから意見を引き出しながら、現活動の報告と今後における必要な活動とは何かを討論していました。特に北ローターアクトクラブ小甲薫会長からは現活動の問題点や青少年及び女性が活動しやすい環境づくりや会員増強の協力要請が目を引きました。

友愛の広場も席順を変え、各委員会同志が交流できるような配慮が見受けられました。このIMを今後も参考に、ロータリー活動に尽力して行きたいと思えます。

今期のロータリー活動も残すところあと3ヶ月余りとなりましたが、最後までご尽力・ご指導賜りますようお願い申し上げます、幹事の「IM開催に因んで」報告と致します。有難うございました。



白幡博ガバナー補佐



IM冊子



ガバナー補佐	白幡 博
ガバナー補佐幹事	藤 弘 幸 樋口 貴 広 村 上 祐 二
親睦ロータークラブ	○西村 賢久 ○中村 幸史
IM実行委員長	吉田 秀 俊
IM幹事	○藤 弘 幸 ○奥田 恒 史
IM副実行委員長	川 本 和 之(総務・広報) 部 隆 珍(総務・会場)
総務・企画	○後 藤 公 貴 ○及 川 雅 晴 ○院 井 剛
広報・記録・接待	○舟木 博 ○本橋 賢一 ○伊藤 純 彦
総務 総 務	○登 坂 康 弘 ○樋 口 貴 弘 ○瀧 谷 美 津 男
会 場	○工 藤 彦 夫 ○麻 越 弘 典 ○杉 村 莊 平
S A A	○五 朝 正 吉 ○甲 賀 伸 彦
会 計	淺 野 洋
司 会	(総合司会) 小野寺 俊 (幹事司会) 名 子 肇 康
ア カ デ ミー	○伊 良 正 志 ○田 中 正 巳 ○高 橋 眞 人

クラブ名	登録者数	本日出席者数	
		ア카데미	メイン 遠征の出席
川 路 R C	97名	17名	62名 62名
川 路 北 R C	74名	9名	24名 26名
川 路 西 R C	29名	1名	10名 13名
川 路 東 R C	34名	2名	15名 17名
川 路 南 R C	24名	3名	17名 17名
川 路 ベイ R C	24名	7名	22名 20名
白 鷺 R C	10名	0名	7名 7名
倉 別 R C	15名	0名	12名 12名
経 理 計	307名	39名	169名 174名
川 路 北 R A C			6名 12名

IM冊子

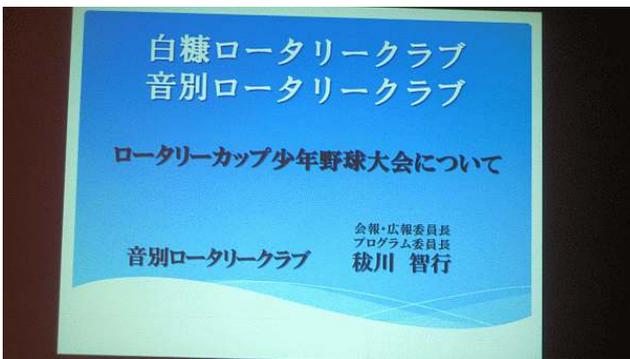




鉤路南R C会員の皆さん



友愛の広場開催 吉田英俊実行委員長



寿子供蝦夷太鼓同好会のみなさん



・次回のプログラム

3月25日(金)

「会員ミニ卓話例会」

会場 ホテルクラウンヒルズ鉤路 12:30～

担当：クラブ会報委員会

・点 鐘 長井会長

今週の会報担当：寺口美由紀会員

